

4 救命救急センター



現在20名の救急専従医、3名の非常勤医師によって救命救急センターの機能が多様化、細分化されたのを受け、重症複合病態や外傷、熱傷、災害などに集中治療医、外科医、内科医、循環器内科医、整形外科医、脳外科医による集学的医療体制で臨んでいます。

2022年度の受け入れ状況は、昨年度に引き続き、コロナ禍の影響を大きく受けて、重症新型コロナウイルス感染症患者の受け入れと重症広範囲熱傷患者、高エネルギー外傷患者などにシフトし、疾患特異的な救急患者や、軽症の新型コロナウイルス感染症患者は各診療科に負担頂きました。そのため、一般救急重症患者の受け入れ総数は昨年度を下回りましたが、重症新型コロナウイルス感染症患者の受け入れは昨年から増加し総数約400名近くを担当しました。熱傷センターでは先端医療として重症広範囲熱傷患者に対して、自家培養表皮や人工真皮による植皮術などを熱傷専門医の指導のもとに行い、良好な成果をおさめています。四肢（手指）切断に対しても大学病院形成外科、整形外科との協力関係下に再接着術等も積極的に受け入れています。内因性疾患では、心肺機能停止患者をはじめ、心室細動による心肺機能停止患者に対しては初療室で迅速に体外循環装置である経皮的人工心肺（PCPS）を導入するとともに病態に応じて当センターCCUと協力し冠動脈形成術、脳低体温療法を組み合わせ、社会復帰できるような高度集中治療を実践しています。

社会問題となっている周産期救急医療に対して産婦人科・小児科などと協力して対応しています。重症急性膵炎に対する動脈注入療法や血液浄化療法、劇症肝炎に対する血漿交換療法、食道静脈瘤破裂や出血性胃潰瘍に対する内視鏡的止血術、前述の重症心不全や呼吸不全に対する補助循環装置（PCPS）や人工心肺（ECMO）を用いた高度集中治療を実践しており、阪神間にとどまらず県外も含め遠方からの転院依頼もヘリコプター搬送などを利用して受け入れています。また、災害拠点病院に指定されておりDMAT（災害医療派遣チーム）を2チーム以上構成し、1名の災害医療コーディネーターと1名の統括DMAT隊員を要しており地震・航空機事故などの大規模災害や核・生物・化学兵器によるCBRNEテロに備え、県内外の災害訓練に定期的に参加し、実際の派遣時に責務が果たせるように日々修練しています。教育面では、医学生教育はもとより病院内外を問わず若手および中堅医師・看護師・メディカルスタッフ・救命士等に対しBLS（一次救命処置トレーニング）・ICLS（心停止に対する蘇生トレーニング）・ISLS（脳卒中初期診療トレーニング）を定期的に関講し実践に応用できる能力を養えるように講義・指導をしています。

4-1 月別入院患者状況

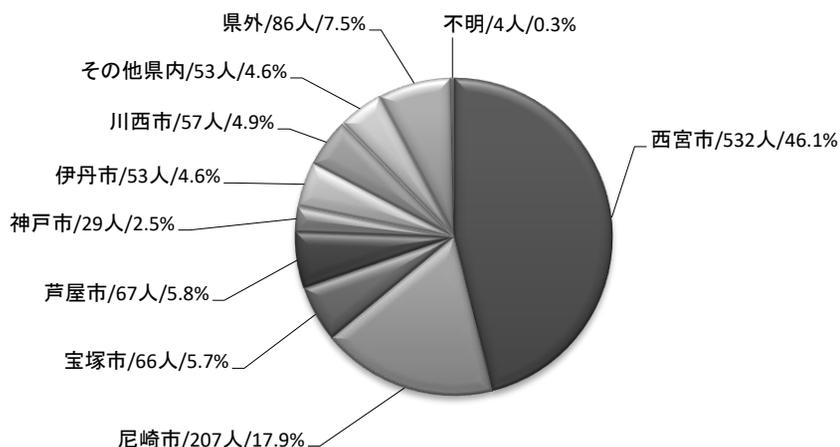
(人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
診療日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
E I C U	新入室	92	99	102	126	136	110	116	132	125	145	122	119	1,424
	転入	16	9	15	31	22	18	14	32	21	16	20	14	228
	退院	15	20	20	32	35	26	24	32	32	35	28	30	329
	転出	94	93	90	122	128	100	107	127	115	123	117	102	1,318
	延在室	354	315	327	419	392	332	325	404	469	506	429	444	4,716
	一日平均	11.8	10.2	10.9	13.5	12.6	11.1	10.5	13.5	15.1	16.3	15.3	14.3	12.9
	利用率(%)	65.6	56.5	60.6	75.1	70.3	61.5	58.2	74.8	84.1	90.7	63.8	59.7	
	稼働率(%)	85.7	76.7	80.9	102.7	99.5	84.8	81.7	104.3	110.4	119.0	85.4	77.4	
救 急 病 棟	新入室	1	2	2	4	1	3		4	2	3		22	
	転入	56	43	56	76	71	57	64	70	59	71	70	54	747
	退院	25	24	21	34	24	24	22	21	24	28	20	30	297
	転出	34	22	32	48	48	33	42	54	37	44	49	30	473
	延在室	445	424	417	502	508	459	446	474	499	459	456	514	5,603
	一日平均	14.8	13.7	13.9	16.2	16.4	15.3	14.4	15.8	16.1	14.8	16.3	16.6	15.4
	利用率(%)	61.8	57.0	57.9	67.5	68.3	63.8	59.9	65.8	67.1	61.7	90.5	92.1	
	稼働率(%)	70.0	63.2	65.3	78.5	78.0	71.7	68.5	76.3	75.3	71.4	104.2	102.9	

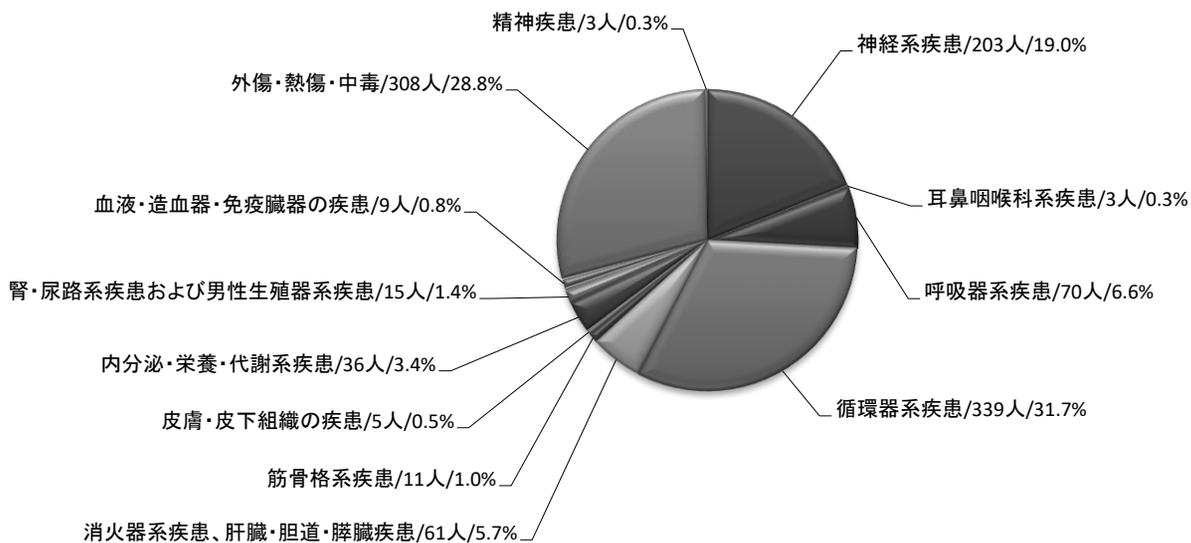
※EICU18床、救急病棟24床だったが、新型コロナウイルス感染症に係る特例措置のため、2021年2月以降はEICU24床、救急病棟18床となった。

利用率 = $\frac{\text{在院(室)延患者数}}{\text{実働延病床数}} \times 100$	$\times 100$	$\frac{\text{在院(室)延患者数} + \text{退院(室)転出患者数}}{\text{実働延病床数}} \times 100$
---	--------------	---

4-2 2022年度住所地別患者数の構成比率(合計1,154人)



4-3 2022年度主要傷病別患者数の構成比率(合計1,068人)



4-4 2022年度年齢別患者数の構成比率(合計1,154人)

